



第3号

1997.5.31



編集発行
都市生活地域復興センター

兵庫県西宮市津門西口町7-3

TEL 0798-36-6679

FAX 0798-36-5114

Email pancer@lib.bekkoame.or.jp

もうひとつの地域づくりをめざして

阪神・淡路大震災からちよ

うど一年が経ったころ、グループ‘えんどう豆’は神戸高塚高校の生徒・教員と協力して西神第11仮設住宅でもちつき大会を行いました。以後現在までに数回にわたってえんどう豆は同校と同仮設自治会との三者共催の行事を開催してきました。その間、えんどう豆はポートアイランドの仮設住宅で活動するグループ‘すまいる’に刺激されて青空市も定期的に行ってきました（西神第3、11両仮設）。しかし、今年度から青空市はお米の格安販売だけに縮小し、共催イベントは継続するものの活動の内容を戸別訪問を軸に組み立て直そうと実験を始めることになりました。そのあたりの事情をグループリーダーの遠藤貴代子さん（写真上）にインタビューしてみました。



遠藤さんにききました

Q: 活動見直しのきっかけは？
ポイントはふたつあります。ひとつは間接的に仮設自治会の運営に‘巻き込まれた’こと。もうひとつは自分たちの活動が生協都市生活の組合員活動に何を還元してきたのか、ということが気になりだしたためです。

Q: ‘巻き込まれた’とは？
自治会役員の人事などの問題についていろいろ相談をもちかけられたのです。仮設にかかわる以上、完全に第三者のふりを決め込むことは実際的にはできません。また、共催イベントの開催にあたってはどうしても「組織と組織のおつきあい」をしなければなりません。ところが、そんなことを繰り返しているうち、仮設の人々と交流しているの

か、それとも自治会とつき合っているのか、わからなくなってきたのです。自治会を飛び越えて個々の人とつながりを持つのは、なんだか‘内政干渉’みたいな気がしてくるようになってしまっ

て、「これでいいのかな？」という意識がグループの

メンバーの中に芽生えてきたように思います。
Q: 生協都市生活の組合員活動との関係についてもう少し詳しく。

えんどう豆の活動を始めた当初は、支部がどうの、組織がどうの、などと考えている余裕は正直言ってありませんでした。「住んでいる街に仮設が大量に建った、何かしなくちゃ」というのが実情でした。けれども震災後2年半経ったいま、「地域に根ざした活動を継続していくためにはどうしたらよいか」と問題を立てるとやはり‘なま’とのつながりがいちばん大切なんだとあらためて実感しています。

Q: 仮設での青空市を縮小した理由は？
青空市を始めたのは買い物の不便さをおぎなうためでしたが、これも十分に考え抜いていたわけではありません。青空市のための青空市になってはいけないと思って、「重くてかさばるものを特にこまっているひとに」という原点に帰ることにしたのです。品目を増やすかどうかは目的も含めて仮設の人々の理解と協力の積み重ねの中で解決していくことにしました。また、青空市の継続というのは簡単なようで実は

西神ニュータウンってどんなところ？

神戸市西区に開発された西神ニュータウン。広大な丘陵地帯にピカピカの戸建て住宅やマンションが建ち並んでいます。住宅街のはずれには地肌がむき出しの荒涼たる造成地がひろがっています。とはいえ、まだまだ周辺には田畑や雑木林がたくさんあり、こうした風景は都市近郊のニュータウンとしてはそんなに珍しいものではないかもしれません。

ところが1995年の春を境にして、西神ニュータウンを中心にした神戸市西区に全国でもここでしか見られないという風景が付け加わりました。西区に突如として1万戸近い仮設住宅が建設され、1万数千もの人々が神戸の海沿いの市街地から‘移住’してきたのです。神戸市分の仮設住宅の3分の1弱が西区に集中するという結果になりました。また、1団地で千戸を超える‘マンモス仮設’もここにあります。これらの仮設住宅の大半は街はずれの造成地の上に建てられています。グループ‘えんどう豆’の活動の舞台、西神ニュータウンとはこのような街なのです。

かなりの気力と体力がいります。この力での形で活かしたいという気持ちがメンバーの中でだんだんと強まってきたことも事実です。
Q: 高塚高校との共催イベントは今年度も続く

のですか？

おおまかな予定はすでに決まっています。今年度も3回のイベントを行うつもりです。もっとも、私たちの活動が若い彼ら、彼女らにいい意味での影響を与えているかどうかは大いに疑問

があります。高校生たちとの交流ももっと質を高めていきたいと思っていますが、ちょっと欲張り過ぎかな？

Q: 仮設内での個別訪問から再スタートすることですが、その先の展望は？

正直に言いますが、「やってみてから考えよう」というところなんです。いいも悪いも「これがえんどう豆の生きる道」です。とにかく、仮設内や生協都市生活の内外でのいろいろな人々との新しい‘であい’が今年のいちばんの課題です。

Q: ありがとうございます。

(5月28日、構成：編集部)

えんどう豆の生きる道



6月の予定

- 5日木 ポートアイランド第3仮設茶話会 (神・中央区、by あまいる)
- 4日水 ポーアイ手渡し共同購入
- 11日水 ポーアイ手渡し共同購入
- 12日木 たまねぎの会企画会議 (西宮市、by たまねぎの会) かけ橋勉強会 (神・垂水区、by かけ橋)
- 18日水 ポーアイ手渡し共同購入
- 19日木 生活応援部会
- 20日金 老人屋食会 (尼崎市、by わがは)
- 21日水 復興センター運営会議
- 25日水 ポーアイ手渡し共同購入
- 26日木 荻野仮設交流会 (伊丹市、by さくらんぼ) 西宮浜ふれあいセンター交流会 (西宮市、by たまねぎの会)



第2回もちつき大会、西神11仮設、97年1月

災害保障制度の実現を！



災害保障制度の実現を！

その3

by 池田啓一

住宅と生活

大災害、たとえば阪神・淡路大震災では、ほとんどありとあらゆるものが破壊されました。復興には大変な労力と金がかかります。大惨事だけに、広い意味での公共性を認められているモノゴトについてはこれまでもいろいろな支援策が施されてきました。しかし「個人の住宅と生活の再建」は「自助努力(＝甲斐性)」に任されたままです。地震・噴火・津波に関しては、ほとんどの人にとって保険も役に立ちません。地震保険の普及率は10%程度なのです。

「自立」といっても、人はさまざまな関係の中で生きています(人・モノ・カネのネットワーク)。普段はあまり意識されないこれらの関係も災害によってずたずたにされたとき、はじめて人はその存在に気づきます。「複合的

被害」ということばがありますが、地域圏全体が大きなダメージをこうむった場合、その被害は連鎖的にさまざまな階層の人々に複雑な影響を及ぼします。いわゆる「社会的弱者」だけが困難に直面するわけではありません。少なくとも阪神・淡路大震災においては2年半経った現在でも社会を支える中堅層までが自立の前提たる住宅と生活の再建に苦しんでいます。

昔と違って、今は生活のすべてがカネなしには成り立たない世の中になってしまいました。普通の人々はそれぞれの「カイショウ」に従って綱渡りするような気持ちでぎりぎりの生活をしています。商店主のみなさん！顧客の半分が地域から出ていって戻ってこれなくなったとしたら！都市部の賃貸は家賃が高すぎるからという理由で無理して持ち家のローンを組んだサラリーマンのみなさん！ローンを15年残したまま自宅が倒壊したとしたら！災害保障制度とは、これまで「カイショウ」にまかされてきた被災後の個人の住宅と生活の再建を国民・住民全体で支え合う新しい公的な仕組みをつくらうということに他なりません。

帯に短し、たすきに長し？

前号で紹介した住宅地震共済・災害弔慰金法改正(に代表される一律給付制度)・基金の3つのプランはどれも単独では生活と住宅の再建全体をカバーし切れません。共済は大きな金額を給付することが可能ですが、対象が住宅等に限定されるため一般的な生活再建には不向きです。基金は柔軟性がありますが、運用益を主に利用するという仕組みのために、巨額の資金を必要とする住宅再建のためには膨

大な元本を必要とします。用途を限定しない一律給付金は社会と行政機能が混乱している災害直後にはなくてはならないものですが、住宅再建に実質的に役立つほどの金額を公金を使って一律に給付するとすれば、必要な社会的・政治的合意が得られるかどうか疑問なしとしません。

総合的なプランを

阪神・淡路大震災へさかのぼって新制度を適用するということが私たちに最大の関心の一つであることは間違いありませんが、新制度は何よりもこの国の未来のためにあります。したがって、阪神・淡路大震災の被災者を「黙らせる」ための「お茶濁し」的の制度をつくってそれでおしまいという事態だけは絶対に避けねばなりません。そのためにもそれぞれのプランの長所を組み合わせた総合的な制度の確立に向けてそれぞれの案を担う諸運動体は協同作業を行う時期に今まさにさしかかろうとしています。(了)

追記

今号でいう「基金」とは必ずしも全労済協会提案の基金案を指してはいません。私たちの理想とする基金とは共済との役割分担を前提にした「第2の自治体予算」ともいうべきで、そのヒントはもちろん雲仙岳災害対策基金にあります。ちなみに最近兵庫県が出した基金案もその内容は一律給付金に近いもので、市民＝議員立法案に対し財源的裏付けを自治体的に示したものと私たちは評価しています。

INFORMATION

次号お知らせ

たまねぎの花？

◆むいてもむいても同じたまねぎ……。かわりばえがしないじゃないか。ご指摘のあなた、実はネ、これも「戦略」なんですよ！(ホント?)

◆たまねぎにも花が咲くって知ってましたか？(これはホント)

◆今年のはたまねぎの会にとって「攻め」の年なんです。(わっ、強気！)

というわけで次号は震災直後から西宮の避難所で炊き出しを始め、避難所閉鎖までがんばった生活応援部のエース(?)たまねぎの会の特集です。

INFORMATION

Dairy Memo

5月

2日 ハングル講座(復興センター)

7日 ポーアイ手渡し共同購入

8日 復興センター昼食会(西宮、たまねぎの会)

ポーアイ第3仮設茶話会 (by あまいる)

昭和・川辺公園仮設交流会 (尼崎、by さくらんぼ)

9日 ハングル講座

14日 ポーアイ手渡し共同購入 (by あまいる)

15日 生活応援部会議

16日 ハングル講座

老人昼食会(武庫之荘北会館、尼崎、by わかは)

センターの活動日誌

21日 ポーアイ手渡し共同購入 (by あまいる)

22日 奥畑仮設交流会(伊丹、by さくらんぼ)

西宮浜仮設交流会(西宮、by たまねぎの会)

23日 ハングル講座

28日 ポーアイ手渡し共同購入 (by あまいる)

30日 ハングル講座

お米プロジェクト(西神3、11仮設、by 2hとら豆)